



目 次

本と音楽との出会い ..... 1  
初級・中級・上級 ..... 3  
回想 40 年、鳥大図書館とともに ..... 4  
ミニ・シリーズ・情報検索コーナーより  
その⑩「Japan Knowledge」利用ガイド ..... 9  
2008 年利用できる電子ジャーナル ..... 11  
ミニ・トピックス ..... 12  
教員からの 19 年度学生用図書を紹介 ..... 19  
平成 20 年度中央図書館カレンダー ..... 24

※ PDFファイルをご覧いただくためには、アドビ社のアクロバットリーダーが必要です(無料)。ダウンロード方法など詳細については[こちら](#)をご覧ください。

## 本と音楽との出会い

新 倉 健

本を読むことは好きなほうだが、取り立てて読書家というわけでもなく、専門が作曲なので、文章よりもオタマジャクシと向き合っている時間のほうが多い私にとって、本とは一体どのような存在なのだろうか？ 図書館報への寄稿を身の程知らずにも引き受けてしまったから、いったい何を書いたらよかろうかといろいろ悩み、思いをめぐらしていたら、意外にも身近なところに答えがあることに気がついた。自分のこれまで作曲した曲の中に、本との出会いに触発されて創った曲がいくつかあることにあらためて気付いたのである。

こんな個人的なことを書き連ねても読む人にはなはだ迷惑なことかもしれないと恐れつつ、以下に私が本との出会いに触発されて作曲した作品について簡単に述べたい。

### ♪「madrigal」(マドリガル)

詩人の谷川俊太郎が文化人類学者のマリノフスキーに捧げた「数える」という詩に触発されて、

大学院を修了した翌年に作曲・初演した曲である。当時の私はアフリカやインドネシアの音楽に非常に魅力を感じており、この曲では中央アフリカの民族音楽の分析に基づいた語法により、この詩から感じ取った世界に近づこうとした。



### ♪「広島が言わせる言葉」

広島への原爆投下をテーマとした作品の委嘱を受け、様々な資料に当たり広島の原爆資料館にも足を運んだが、あまりのテーマの重さに押しつぶされそうになって作曲に取り掛かることができず悶々としていた時に、高校時代の友人が薦めてくれた原民喜の「夏の花」に感銘を受けて作曲した曲である。東京での初演をしたヴァイオリニストの井上将興氏の尽力により、井上チェンバーアンサンブルによってニューヨークで改訂初演され、その後アメリカ各地で演奏される機会を得

た。

### ♪「ギターンジャリに寄せる三つのヴォカリーズ」

たまたま文庫本でタゴールの詩集を読んで、ギターンジャリの中の三つの詩にインスピレーションを得て作曲した。ヴォカリーズとは歌詞を伴わないで母音だけで歌う唱法である。この作品はエリザベト音楽大学のヘンゼラー先生の目に留まり、先生が編集に関わっておられたリコーダーのための現代作品のシリーズとしてドイツで出版された。もしかしたら歌詞が無いのが幸いしたのかもしれない。

### ♪星めぐりのためのエスキース I～VI、♪ケンタウル祭の夜、♪オペラ「ポラーノの広場」

私が鳥取大学に赴任した1981年から「星めぐりのためのエスキース」という室内楽のシリーズを作曲し始めた。Iフルート、IIピアノ連弾、IIIヴァイオリン、IV木管アンサンブルとハープ、Vオーケストラ、VI弦楽合奏、など様々な器楽のためのシリーズで、番外編として「ケンタウル祭の夜」というオーケストラの作品がある。タイトルからすぐに想像がつくように、いずれも宮沢賢治の「銀河鉄道之夜」をテーマとした曲である。

このシリーズを作曲し始めてから数年後に、以前から欲しかった筑摩書房の賢治の全集をやつとこのことで分割払いで購入した。その中に「歌曲」という項目を含む一巻があり、「星めぐりのうた」など賢治が作曲した歌や、「田園」や「新世界」などの名曲のメロディーに賢治が詩をつけて愛唱した曲の楽譜が掲載されていた。「これは面白い」と思い立って、その中のいくつかを選んで弦楽四重奏の伴奏で歌う「賢治の作った歌・歌った歌」というライブラリー・コンサートを企画し、新しく出来たばかりの県立図書館で演奏した。このときに演奏した曲の中に、賢治が花巻農林の教師時代に生徒達と上演して楽しんだ「ポランの広場第2幕」

の劇中で歌われた楽しい歌がいくつかあったので劇の雰囲気を生かしたいということで、鳥取在住の若い声楽家に頼んで、ちょっとした演技をつけてオペラ風に歌ってもらった。このライブラリー・コンサート以来、私の中に「ポラーノの広場」を本格的なオペラにしたいという思いが生まれたのだった。私にとって初めてのオペラの作曲には大いに苦戦し、完成まで5年ほどかかったが、オペラ「ポラーノの広場」は2002年の国民文化祭で、鳥取オペラ協会の方々を始めとする多くの人々の尽力のおかげで予想以上の見事な出来映えで上演することが出来た。

“本との出会い”によって私が作曲した作品についてだらだらと述べてきたが、「もしあの時あの本に出会わなかったら・・・」と想像すると、なんとも不思議な気がする。

暮れから正月に掛けて作曲した出来立てのほやほやの曲も“本との出会い”によって生まれたものだ。斎藤隆介の「モチモチの木」を題材にしたチェロ、ピアノと朗読のための「音楽物語」で、3月8日に芸術文化センターのアートプラザで開かれる「作曲工房パパゲーノ」の発表会で鳥取の若い作曲家たちの作品と一緒に演奏される予定である。

現在「音の絵本」と題した朗読と弦楽四重奏のための宮沢賢治の童話シリーズの作曲を計画しているが、「モチモチの木」はその準備運動のようなものである。

いつの日か、鳥取大学の附属図書館に地域の子供たちが集まり、音楽を楽しみながら宮沢賢治の世界に心をときめかすライブラリー・コンサートが開けることを夢見て作曲に励みたいと思う。

(にいくら けん : 地域学部附属芸術文化センター長、同センター教授)

## 初級・中級・上級



木村 晃

40年も前の話で記憶が曖昧であることをまずお断りしておきます。私は大学1回生の時、教養の数学の講義“微分学”でデデキンドの切断に関する講義を受けました。これは“任意の実数を選んだとき、その無限の近傍にも実数が存在する”という公理だったようです。先生は熱心にその重要性を説明しておられましたが、工学部の学生であった私は当時“これが何で大切なんだ？”という印象を持ったように記憶しています。先生も最後に“余り興味がないでしょうね”と言われたような記憶があります。最終回の講義で、いくつかの例題を用いた説明があったので、その重要性は理解しないままでしたが、なんとなく単位を取ることができました。大学3年生の工業数学の講義では積分方程式を習いました。第1種、第2種フレッドホルム型積分方程式について授業を受けました。講義は“したがって解が存在する”という説明(とぼけた説明と私は思いました)で終わりました。今は、数学の研究はこのようなものと分かるようになったのですが、当時私は“工学部の授業は具体的であるはず”と考えていましたので、このような授業になじめず、高校時代にはそれほど嫌いではなかった数学が次第に好きでない科目になっていった記憶があります。そのほか変分の講義も受ましたが、これもどのように利用できるのかについてイメージが持てないまま終わりました。

その後大学に就職したのですが、当時、上に書いたような状態で数学の基礎学力にいささか問題を抱えておりましたので、最初の頃は他人

の論文を理解するのにかなり手こずりました。論文では理論の展開にどの学問分野のどんな関係を用いたかについて丁寧に書いてあることは少なく、理論式の行間が乱暴に飛ぶものも多かったので、理解するためにまず何を勉強するべきかを見つけだす必要がありました。しかし、当時は時間がたっぷりあったので、同じ論文を繰り返し読んだり、同じ分野の論文をいくつか読んだりしているうちにいつしか必要な分野も分かったり、使用されている理論もある程度限られていることが理解できるようになってきていました。それでも違うテーマの論文を読み始めると、模索からの過程を繰り返し経験しなくてはなりませんでした。

必要な情報を手に入れるために最初にすることは、情報が存在する分野の特定、次はその分野の入門書の発見ということになります。しかも関連する分野の総てを理解しようと言うわけではありません。多くの場合必要最小限の範囲を特定(第〇〇章××節)してその部分だけ理解しようと考えます。ところが範囲が特定できてもそこを理解するためにはまた別の知識が必要となる場合もあり、何とかうすうすとわかるようになってようやく、本来の自分の研究に戻るという繰り返しが必要になります。工学は応用を目的とするので、使えるものは何でも使うことが基本ですから、上のような試行錯誤は常に必要になります。当時このようなことを繰り返すたびに私が感じていたことは、“自分のレベルに”ちょうど良い本を見つけることの難しさでした。名著といわれる本はあるものの、それを理解するために自分のレベルに合う

本が更に必要であることも多く、数学の研究が目的でもないのに、数学の本をあっちこっちうろろすることが数多くありました。

最近は多くの本が出版され、どのような分野であつても、入門書から高度な専門書まで、読者に応じてふさわしい本を発見することが比較的楽になってきました。本学ではかなり前から学生用図書費が予算化されて、教員が毎年図書の選択に協力しております。その際ここまで話してきた自分の経験が本の選択に活かされているか？ということがいつも気になっています。大学は学部1年生から博士課程の学生、さらには研究者まで非常に幅広いニーズを抱えた人々の組織です。図書館の蔵書は出来るだけ多くの人が、初級、中級、上級と感ずることが出来る図書の整備が出

来ていることが理想です。この初級、中級、上級の各クラスの判断は人により変わりますが、誰もがそう感ずるように整備出来ていればすばらしい図書館と思います。

学問の多様化に対応して、購入図書の種類は増えていきます。総ての場合に、初・中・上の各クラスの図書の準備は難しいでしょうが、少なくとも数学等の基礎的で共通的と考えられる分野については上に説明したような図書が整備されていればと思います。分野ごとにレベルに応じた図書のラインアップは手間と経費の掛かる仕事ですが、整備計画のなかで具体化の方針ができればと感ずっております。

(きむら あきら: 工学部社会開発システム工学科教授)

## 回想 40 年、鳥大図書館とともに

國 本 雅 通

昭和44(1969)年4月、私はこの鳥取大学附属図書館に採用となったが、既にその1年半ほど前から当時の文部省が推進していた指定図書制度の導入準備のため事務補佐員として勤務していたので、実に40年以上の永きに亘つてこの図書館でお世話になったこととなる。このたび定年退職するにあたって、私の在籍した昭和42(1967)年頃からの想い出を、断片的にはあるが辿つてみたい。

### キャンパス統合移転後と大学紛争

昭和41(1966)年に統合移転を終えて、新しい総合大学として確かな歩みを始めた昭和42(1967)年頃の図書館組織は、本館であつた学芸学部図書館に農学部分館を統合して、更に新設された工学部を包含した附属図書館(中央館)が誕生し、

医学部分館との2つの図書館で出発したばかりであつた。その当時の中央館は、館長と事務長のもとに総務係、受入係、目録係、運用係の4係で構成され、建物は鉄筋2階・書庫4層建、延べ面積約2,000㎡、閲覧座席数200余、館員数20名足らずの小さな図書館であつた。

昭和43年度は大学紛争の嵐が全国を吹き荒れた。鳥取大学でも事務局と教養部の建物が全共闘学生によって占拠され、その間附属図書館には事務局職員を含めた2名の当直者を置くこととなった。非常時は6畳の当直室に5、6名が泊まり込むこともあり、押し入れの中で布団にくるまり朝を迎えたことも何度かあつたが、他部局の先輩職員と寝起きをともにしながら色々な話を聞けるのは



楽しみであったし、若くて独身でもあったため苦にはならなかった。後日、教職員によって実力で封鎖は解除されたが、今では到底考えられない懐かしい思い出である。大学紛争がようやく下火となった頃、附属図書館受入係に正式採用となった。

### 図書館報の発行

この号で第111号の発行を迎えるこの「鳥取大学附属図書館報」は、昭和45(1970)年4月に「としよかんほう」として産声をあげた。私は創刊以来ずっと編集やカットの作成を通じて様々な形でこの小さな広報誌に関わってきたが、今となってはまさに附属図書館の歴史を語り継ぐものの一つとして大変貴重なものとなっている。

創刊の目的は、大学紛争の終焉とともにようやく落ち着きを見せ始めた新キャンパスに図書館活動を早く軌道に乗せ、利用者を意識した図書館内側の情報を発信するためであって、当時としては全国的にも先駆的な試みであった。創刊号(第1巻第1号)は8ページ構成、「発刊に当たって(館長挨拶)、図書館規則、図書館委員紹介、連絡版、蔵書統計、昭和44年度利用統計」を掲載し、その「あとがき」に「図書館のありのままの姿を利用者の皆さんに知っていただき、さらに利用者と図書館との対話のなかだちとして、向後、親しまれる新しい時代の大学図書館造りに役立つことができれば・・・」と当時の宮脇事務長が述べている。隔月刊で、中国四国地区大学図書館、県内公共図書館、学内教職員等を対象に配布し、原稿、挿絵、タイプ、印刷等すべて館員の手作りでスタートした。

その後、41号(昭和58:1983年)から誌名を「Library」として季刊となり、81号(平成6:1994年)からは大きさもそれまでのB5版からA4版にしたほか、その後の85号(平成7:1995年)から年2回刊行とするなど幾多の変遷を経てきた。更に106号

(平成17:2005年)からはそれまでの紙での発行をやめて、附属図書館ホームページのWeb版を原則としてタイトルデザイン等を一新し、現在に至っている。これに代わるメルマガや e-News に比べて速報性で劣ることから今後も発行の是非について議論のあるところであろうが、特に記録性を重視して考えるならば継続していくのが望ましいと思われる。

### 建物の増改築

統合移転後まもなく生じた不都合は、学生・教職員数の増加に対応していない閲覧座席数と大幅な開架図書冊数の不足であった。それらを解消するため、中央館はその後2度に亘って増改築を行った。

第1期増改築(昭和47:1972年2月竣工)では、書庫・閲覧室(鉄筋2階及び書庫3層建1,050㎡)を増築し延べ面積が2,937㎡となった。また、開架冊数をそれまでの約1万冊から5万冊に増やすとともに、閲覧座席数を222席から280席としてブラウジングコーナーを新設したほか、複写機をカウンター近くに移設した。メインカウンターは2階に置いたままで、開架書庫の利用時はカウンターで氏名等を記入しなければならない規則ではあったが、利用者から多くの図書を実際に手にとって探すことのできる喜びが伝わってきた。

第2期増改築(昭55:1980年7月竣工)は、昭和54年度予算によって工事が認められ、翌年度その完成を迎えることができた。工事中は、年末近くに管理部門を大学会館へ移転し、閲覧サービス部門のみは旧建物の書庫と閲覧室の一部を残して約半年の間利用者の協力を得ながら部分開館を続けた。夏期休業中の約1ヶ月間全面休館して移転作業を行い、9月1日に開館した。

この増改築にあたっては、特に「利用者に親しみのある利用しやすい図書館」を目標として計画

し、増築面積1,383㎡(一部3階建)、改築面積1,381㎡(2階建)と従来の建物の大幅な改修を行い、延べ面積約4,600㎡、閲覧座席数395席、図書収容能力約31万冊とした。この工事は、耐用年数から壊せなかった旧閉架書庫をそのまま曳家して残すと同時に、その跡地に閲覧室等を増築する画期的なものであり、閲覧室などの拡充とともに利用者の便宜を図るため1、2階にサービススペースを配し、それまで1階にあった事務室を3階へ移した。この結果、身障者に配慮して玄関アプローチのスロープ、自動ドア、エレベーターを設置するとともに館全体に空調設備を施し、大きく学習環境が改善できた。また、全館にわたって完全開架方式に切り替え、その当時の蔵書冊数28万冊の内の10万冊を開架してサービスの向上を図った。これら大幅なサービスの改善と、4つの閲覧室の他、郷土資料室、グループ演習室、休憩コーナー、ブラウジングコーナーなどの新設はマスコミでも取り上げられ、リニューアルオープン時には地元新聞への掲載とともに河手館長がNHKの依頼を受けテレビ出演して紹介する一齣もあった。

現在、この施設も30年近くを経て狭隘化と老朽化が進むとともに、情報化時代への対応が難しくなっている。それらを解消するため、既に平成の初頭から新図書館構想検討委員会や建物専門委員会を立ち上げ、何度も審議を重ねてきた。その間、「図書館機能の強化・高度化について―鳥取大学新図書館構想―(平成7:1995年1月)」、「鳥取大学附属図書館中央館増改築基本構想(平成10:1998年10月)」、「鳥取大学(三浦)学術情報館基本計画書(平成15:2003年6月)」をまとめ、それぞれの時代に即した図書館機能の向上を目指した建物の新築・増改築について探り続けた。また、平成17(2005)年度には増改築を主としながらも総合メディア基盤センターの建物・施設を統合した高度な学術情報活動の展開を目指して

新構想「学術情報館”agora”」を立ち上げ、更に翌18年度には「戦略情報館(仮称)機能図及び学術情報館:人の集まる agora(仮称)のイメージ図」(当館報 no.109参照)にみるような他施設との複合も視野に入れた様々な計画を策定し訴え続けているが、未だ実現できていない状況にある。永年の多くの関係者、そして利用者の熱い念願であることから、一日も早い実現を期待してやまない。



### 図書館業務の電算化

昭和55(1980)年、学術審議会から「今後における学術情報システムの在り方について」が答申され、全国的に電算化への取り組みが本格化した。本学においても、昭和62年度に学内情報処理センターの設置が予定されその中に図書館の電算化も要求事項として含まれており、昭和60(1985)年12月、館内にワーキンググループを設置して具体的な準備にあたった。翌年6月の図書館委員会で業務電算化が承認されたのを機に、準備委員会、更に電算化委員会を組織して業務フロー、各サブシステム等の検討を重ね、平成元(1989)年1月に情報処理センターホストマシンの支援を得ながら、日立製の図書館業務用ソフトBIBLIONの閲覧サブシステムを稼働させて電算化のスタートを切った。また、その直前、昭和63(1988)年11月には中央館にブック・ディテクション・システムを導入し、それまで禁止していた鞆類の持ち込みを許可して自由な閲覧ができるようにした。同年度内のこの2つの稼働は当時としては大事業であり、実現に至るまでには様々な困窮した事態にも遭遇したが、その効果が徐々に入館者数や貸出冊数の増加へと確実に現れてくるのは、直接携わった者として苦勞の報われる一番うれしいことであった。

その後、平成元(1989)年12月に DDX-P により N1ネットワーク経由で学術情報センターに接続し、

翌年4月、目録サブシステム稼働と同時に全国書誌総合目録データベース(学術情報センター目録システム)へ参画して書誌・所蔵登録とともに学内所蔵目録データベースの構築を開始した。また、平成4(1992)年2月には図書館専用電算機システム(日立 M 620/20E :LOOKS/U)を導入し、4月からはILLシステムに参画した。その後図書館システムは、平成9(1997)年3月にはクライアント/サーバ方式の図書館情報システム(日立3050 RX :Atheneum)、平成12(2000)年3月には同(日立3050 RX :LOOKS21/U)にそれぞれ更新し、平成17(2005)年3月に現在の NTT データ: NALIS へと移行してきた。

当館が業務電算化に着手して丁度20年、その後多くの関係者によって何度も試行錯誤を重ねながら徐々に改善され、OPACの充実や鳥取県大学等・公共図書館横断検索システムの実現をみるまでに至っている。すでに平成21(2009)年度末に次期システムへの更新予定を控えているが、今後詳細な検討が進められる中で、一層利用者を中心に位置づけた図書館システムとなることを期待している。

### 図書館事務組織の改編

統合移転からしばらくの間、係の新設や改称など比較的小さな動きにとどまっていた事務組織は、平成7(1995)年4月にそれまでの事務長制から1部2課制へと改編され、情報管理課に総務係・図書情報係・雑誌情報係及び医学資料係(医学部分館)の4係、情報サービス課に資料サービス係・学術情報係及び医学情報係(医学部分館)の3係が置かれた。また、平成15(2003)年度には、情報管理課の図書情報係と雑誌情報係を統合して資料管理係に変更し、電子情報係を新設すると伴に情報サービス課学術情報係を学術情報サービス係に改称して、電子図書館時代への対応に備え

た。更に翌16(2004)年度には、国立大学法人への移行に伴って従来の附属図書館業務に総合メディア基盤センター事務、事務情報基盤等を加えた学術情報部が創設され、情報企画推進課に情報企画係及び情報基盤係、図書館情報課に図書館専門員・学術情報係・資料サービス係・資料管理係・医学資料係及び医学情報係を置き1部2課7係となった。その後、平成19(2007)年度に図書館情報課へ総務係が再設置され、現在の1部2課8係となっている。

当初、すでに業務量が増大し定員削減が進む中での1部2課制への改編は、管理職が増えることによって実務者数の減少が実質的な労働力低下へつながりはしないかと、実務者のひとりとしては正直なところ危惧せざるを得なかった。しかし現在は、そのこと以上に他大学等図書館で十分に実績を積んだ有能な図書館員がリーダーとして着任することが組織的な強化、業務の充実・活性化をもたらしており、対外的にも大きな力となっていると感じている。管理職の方々には、これから定員削減や大学運営交付金の減少が進む中では特に人材育成を当館の重要課題と捉え、知と実践の融合を目指す本学の知の拠点たる図書館に相応しい、高度な専門知識の習得と卓越したスキルを研鑽できる環境の整備を今後とも強くお願いしたい。

また、医学部分館の組織的位置付けについては、平成14年度に1年間ではあるが赴任した経験から考えあわせると、本学の図書館組織を徹底して一元化することには限界があると感じている。現在、形の上では図書館事務部は一元化されたといっても、分館は現実には90kmも離れている医学部の構内に在って医学部や附属病院の教職員学生を主たる対象として存在する医学図書館の事務を所掌していることに変わりはなく、予算、人事、施設のすべての面において医

学部及び附属病院に依存せざるを得ない状況にある。この地理的な障害とともに歴史的な分館の成立経緯等を背景とした動かし難い問題を無視すれば、表面的な一元化となり結果的に合理化・省力化に相反することとなりかねない。やはり、医学部分館は中央館と相互の機能強化を図りながら業務の一元化・省力化は何ができるのかを分別仕分けしつつ、中央館、医学部及び附属病院との報・連・相を密にして、「附属図書館の分館」そして「医学部及び附属病院の図書館」の両方の姿でそれぞれ機能を果たして行くべきと思われる。

#### 国立大学法人化、そしてこれから

平成16(2004)年度に法人化して、既に4年目が経過しようとしている。当館でもこれまで、法人化政策における効率化と競争的環境のもとでサービス提供を主業務とする図書館はどうすれば生き残れるのかを真剣に考えながら、また中期目標・中期計画との整合性を図りながら業務を進めてきた。

まず、より専門性を持った図書館独自の高度なサービスを提供できる学術資料環境を整備するため、「電子ジャーナル」「学術文献データベース」「図書資料」の3本柱からなる学術資料費全般にわたる整備方策(学術資料整備計画)により戦略的経費として共通経費化するなどして、学術情報の安定的な供給を確保する努力を続けてきた。同時に、利用者講習会や説明会の開催、学生への情報リテラシー授業へ参画するなどして、学内での電子ジャーナルやデータベースの利用促進を図っている。これら電子的学術情報を収集・提供していく一方で、「鳥取大学学術成果リポジトリ」を構築して学内で生産された研究成果等を電子化して広く学内外に向けて発信していく計画も進めており、平

成20年度には試行公開を予定している。これは社会貢献にもつながる今後の重要な事業のひとつとなるものと認識している。

また、特に法人化後は社会に開かれた大学図書館を目指して、県立図書館、県内全市の市立図書館との相互協力協定を締結するなど社会・地域との連携に努めてきた。県内図書館ネットワークを拡充して、公共図書館図書の貸出・返却サービス、講演会・公開展示の共同開催、職員相互派遣研修、県内図書館員のレベルアップやキャリアアップのための研修会などを様々な形で実施してきたが、今後も大学図書館の果たす役割を地域からみた視点で工夫しながら事業を展開していくことが大切と思う。

このほかにも、従来のサービスを徹底整理して質量ともに充実した業務を展開することに努めてきたが、特にこれからは大学の構成員はもとより地域住民を含めた「利用者の図書館観」が当館の運命を決定づけると考えられる。従って今後は、利用者層開拓のための新事業の創造や利用者からの支持を得るための新サービスの開発・PRを、施設・設備の整備とともに推進して行かなければならないと思う。

館員一丸となつての、一層の奮闘に期待している。

#### 末筆ながら

以上思いつくまま、この図書館での思い出をその思いとともに綴ってみた。振り返ればこの40年間、良き諸先輩・同僚等、多くの素晴らしい方々に囲まれて楽しく仕事をさせていただいた。末筆ながら、お世話になった方々へ心から感謝するとともに、鳥取大学、そして鳥取大学附属図書館の限りない発展を祈念したい。

(くにもと まさみち：図書館情報課図書館専門員)

# 「Japan Knowledge」 利用ガイド

## JapanKnowledge

同時アクセス数  
4

知識探索サイト ジャパンナレッジ <http://na.jkn21.com/>  
百科事典・辞書・ニュース・学術サイト URL 集などを集積した  
日本最大の知識データベースを一括検索できるデータベースです。

膨大な知識データの一括検索を行う『OneLook 検索』

時事用語や経済情報などが 満載の  
日変わり・週変わりのコンテンツ

目で見て理解・楽しめる多彩な  
マルチメディアコンテンツ

その他さまざまなコンテンツを利用できます。



大日本百科事典（ニッポニカ）を  
使いこなすためのコンテンツや  
検索が充実、日々アップデート！

JK Voice（ユーザーの声）も  
調べ方の参考に！

注意！  
字通、日本歴史地名大系  
日国オンラインは検索できません

### OneLook 検索が可能なコンテンツ一覧

#### 日本大百科全書



見出し項目約 13 万項目、総索引約 70 万項目という  
膨大な知識の集大成である『日本大百科全書』の全項  
目が利用可能！

#### Encyclopedia of Japan



日本固有の「わび」「さび」から宇宙開発まで、日本に関  
するあらゆる事柄をわかりやすい英語で解説した百科事  
典。

#### 日本人名大辞典



あらゆる分野で活躍した人々を網羅した、日本最大規  
模の人名辞典。定期更新により、最新の情報をご提供！

#### 情報・知識 imidas



最新の時事用語や流行語の解説はもちろん、「カタカナ語・  
欧文略語」「新語・流行語」を集積、データベース化し収  
録！

#### 現代用語の基礎知識



百科事典では調べきれない暮らしの中の用語、検索エ  
ンジンでは調べきれないしっかりした定義を収録した  
約 300 の分野にまたがる現代用語の事典。

#### Web 版・最新英語情報辞典

「最新英語情報辞典（3 万 5000 語収録）」をベースに最先端の新語  
や俗語、固有名詞を幅広く収録した辞典。

#### デジタル大辞泉



現代日本語をはじめ、カタカナ語、古語、専門語、故  
事・慣用語など 22 万余りの項目を収録した、言葉の集  
大成ともいふべき大型国語辞典。

#### ランダムハウス英和大辞典



派生語・変化形・成句を含めて、最大の 34 万 5000 語を収  
録。そのうち約 10 万件の英単語の音声データを収録！正し  
い発音の確認が可能です。

**プログレッシブ英和中辞典**



時事語、生活語、新語や俗語のほか、生命科学、金融、スポーツ用語など、学習のみならず、専門家の実務に活きる精選された11万7000項目を収録。

**プログレッシブ和英中辞典**



日常生活に必要な基本語から各分野の専門語まで約9万項目を収録。また、標準的口語表現で好評だった用例を実用性の高い11万余りに増補！

**COBUILD 英英辞典**



現代英語として重要な見出し語11万語と、7万5000の用例を収録。音声データも約7万点と充実！

**CAMBRIDGE 英英辞典**



単語の定義には、理解しやすいように簡単な英語が使われており、英英辞典の利用初心者にもやさしい作りが特長。

**科学技術略語大辞典**



医学・航空・化学・電気・電子・情報・物理・数学・建築・機械など科学技術分野で使われる略語8万余語を網羅した総合的な対訳辞典。

**数え方の辞典**



ものの名称から数え方を引くことができる、これまでにない画期的な辞典。数え方にまつわるユニークなコラムも満載！

**週刊エコノミスト**



日本を代表する経済雑誌をコラムタイトルやキーワードで検索可能！PDF形式なので、誌面そのままに閲覧できます。

**JK Who's Who**

政治、ビジネス、学術から、スポーツ、エンタテインメントまであらゆる分野で、今もっとも注目される人物を毎日ご紹介！

**山根一眞のIT書齋術百科**



独自の視点で捉えたデジタルの展望や問題点、そして実体験をもとに生み出された数々の「山根流」仕事術をご紹介します！

**亀井肇の新語探検**



元『現代用語の基礎知識』編集長にして新語アナリストである亀井肇氏が、新世紀ニッポンを「言葉」から探検する、異色コラム。毎日配信！

**田中宇のワールド・クロニクル**



世界各地から発信されるニュースや現地取材をもとに国際ジャーナリスト田中宇氏が、世界の情勢を独自の視点で分析・解説。

**NNA : アジア&EU 国際情報**



アジア・EU各地の経済ニュースや現地記者のおもしろコラムをご紹介します！

**会社四季報**



日本国内の全上場企業について、特色や業績、財務内容、大株主、役員、株価動向などをコンパクトに網羅した企業データブック。

**更新頻度アイコンの見方**

...年1回更新	...年4回更新
...毎月更新	...隔月更新
...週1回更新	...毎日更新
...随時更新	

その他のコンテンツ一覧

<b>三留理男の眼</b>	国連が恒久IDカードを発行している報道写真家、三留理男氏が、今までに撮り続けた膨大な写真ライブラリーから特別に厳選した写真を公開		
<b>東洋文庫</b>	アジアの名著を書籍そのままのPDF形式で閲覧することができ、全ページを詳細に検索可能！現在692冊公開中。		
<b>書籍検索</b>	<a href="#">世界の書籍amazon.co.jp</a>	<a href="#">紀伊國屋書店 BookWeb</a>	60万冊の書誌データ・bk1
<b>マルチメディア</b>			
<b>荒俣宏の新・想像力博物館</b>	<a href="#">Rand McNally 世界地図</a>	<a href="#">江戸明治東京重ね地図</a>	<a href="#">映像記録 1908-2006</a>
<b>大自然ビデオライブラリ</b>	<a href="#">ミュージックライブラリ</a>	<a href="#">図解アニメーション</a>	<a href="#">サウンドライブラリ</a>
<b>国旗・国歌総一覧</b>	<a href="#">年表</a>		

## 2008年 利用できる電子ジャーナル

2008年に利用できる電子ジャーナルについてご紹介します。今年度より、**ASCE, ASME, APS, Cell Press, Academic Search Elite**の各電子ジャーナルが利用可能になりました。

電子ジャーナル パッケージ名	内 容	利用可能 タイトル数	利用可能 範囲
Science Direct	Elsevier Science 社とその関連出版社の学術雑誌が利用できます。	1,966	創刊号～
Springer-LINK	Springer 社・Kulwer 社出版の学術雑誌が利用できます。	1,273	創刊号～
Blackwell Synergy	Blackwell 社発行の自然科学誌 ( STM Collection)と人文社会科学誌 ( SSH Collection)が利用できます。	791	1997～
Wiley Interscience	John Wiley & Sons 社から刊行されている科学技術, 医学などの専門分野のジャーナルが利用できます。	519	1996～
ACS (American Chemical Society)	米国化学会 American Chemical Society (ACS)が発行するコアジャーナル34誌のフルテキストが利用できます。	34	2001～
Oxford Journal	Oxford University Press から刊行されている 169 タイトルが利用できます。	169	創刊号～
Nature 本誌 +12 誌	Nature Publishing Group が刊行する世界的に有名なイギリスの自然科学系雑誌 Nature の電子ジャーナル+姉妹誌 12 誌が利用できます。	13	1997～
Science	雑誌「Science」(1997年頃～)が利用できます。	1	1997～
IEEE CSLSP-e	IEEE Computer society から刊行される雑誌 22 種類が利用できます。	22	1988～
ASCE	米国土木学会 (American Society of Civil Engineer(ASCE))が発行する電子ジャーナル (30 タイトル)が利用できます	30	1990～
ASME	米国機械学会(American Society of Mechanical Engineers(ASME))発行の電子ジャーナルが利用できます。	21	2000～

APS	米国物理学会(American Physical Society(APS)) 発行の電子ジャーナル 8 タイトルが利用できま す。	8	電子済の もの
Cell Press	Cell Press 社発行のライフサイエンス分野電子ジ ャーナルが利用できます。	8	創刊号～
Academic Search Elite	社会、人文、自然科学と収録範囲を幅広く網羅 する、大学・学術研究機関向けの振るテキストデ ータベースです。学術雑誌約 2,000 タイトルの全 文情報を提供しています。	2,016	1985～
その他個別タイトル		83	
合計		6,954	

[その他 フリーアクセスを含め、約 11,000 タイトルの雑誌が利用可能です。図書館ホームページ\(http://www.lib.tottori-u.ac.jp/\)に利用可能電子ジャーナルのリストを作成していますのでご利用ください。](http://www.lib.tottori-u.ac.jp/)

////////////////////ミニ・トピックス////////////////////////////////////

## 平成 19 年度地域の図書館レベルアップ講演会を開催

附属図書館では地域の図書館全体のレベルアップを目指して、平成18年度から「地域の図書館レベルアップ貢献事業」を起ち上げ、鳥取県内の主に図書館職員を対象とした講演会などを開催しています。今年度は新しく県中部での開催を加えて、鳥取県立図書館、倉吉交流プラザ、米子市立図書館において3回の講演会を開催しました。この他にも、「鳥取県看護協会情報研修会」や、境港市民図書館など県内各市立図書館との共催講演会も開催しています。

今後も地域貢献事業を積極的に行い、地域の図書館全体のレベルアップに努め、県内利用者のための図書館サービスを展開していきたいと考えています。

### 東部会場(鳥取市) =====

平成19年9月21日(金)、本年度事業第1弾として千野信浩氏(週刊ダイヤモンド社)を講師に招き、「図書館のなぞ -取材現場からの報告と注文-」と題する講演会を鳥取県立図書館で開催しました。

千野氏は、図書館を使う技とコツを紹介した新潮新書「図書館を使い倒す！」の著者として、

利用者の立場から図書館のいろいろな支援について言及し、様々な図書館の利用体験を通して、図書館の使命、ビジネス支援への考え方、地域の灰色文献の重要性などについて講演されました。ジャーナリストである千野氏が取材をしていくなかで、ネットではできない資料探しとして地域の大学図書館や公共図書館が

とても活用できることや、更なる図書館への期待についてのユーモアあふれる軽妙な語り口に県内の司書等60名の参加者が興味深く聴きました。

終了後のアンケートには「図書館の外からの視点は新鮮であり、もっと外部に眼を向けに行かなければと痛感した」「図書館の可能性を改めて考えさせられ、ユーザーの使い勝手のよい図書館のあり方へのヒントが得られた」など

の感想が寄せられました。



熱弁に耳を傾ける参加者たち(鳥取県立図書館大研修室)

### 中部会場(倉吉市)

平成20年1月11日(金)、本年度第2弾として、井上真琴氏(同志社大学総合情報センター)を講師に招き、「レファレンスでコミュニケーション！」と題する講演会を倉吉交流プラザで開催しました。

井上氏は現在大学図書館に勤務される立場から、図書館の利用満足度をあげるためには、利用者こそが図書館を育てることを紹介した『図書館に訊け！』の著者として、図書館利用の基本からレファレンスサービスの変容と課題解決におけるコミュニケーションの大切さについて力説されました。また、同志社大学のソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用した利用者と資料を結びつける取り組みや、アメリカの大学図書館での、図書館が「学習の場」として共通の場所を設け学習・研究方法を体得する「ラーニング・コモンズ」などを紹介しながら、インターネットの新しいツールを利用した、情報源と利用者の仲介から更に踏み込んだ方

法論理的アプローチとしての高度なレファレンスについて熱弁され、県内の司書ら約60名が熱心に聴き入っていました。

参加者のアンケートには、「世界の情報提供の動向がよくわかり、新たな視点でこれからの図書館の将来について考えることができた」「これまでのレファレンスの大事さも再認識できたが、現代だからこそできるツールを活用するという新しいレファレンスの方法を学ぶことができた」などの感想が寄せられました。



力説に聞き入る参加者たち(倉吉交流プラザ)

### 西部会場(米子市)

平成20年1月25日(金)、本年度第3弾として元京都南病院図書室主任司書 山室眞知子氏を講師に招き、「患者・市民が求める医療情報サービス まず図書館へ行ってみよ

う！」の演題で、米子市立図書館を会場に同館など4館共同で開催しました。

山室氏は、全国の患者図書室・病院図書室における患者やその家族の利用は、医学専門

書の内容が難しく読んでも理解しがたいため、かえって治療を妨げる理由で利用提供に否定的な考え方が残っていたが、近年患者に自分の病気について正しい知識を得てもらうという考え方が主流になってきていることを紹介されました。

また、医学専門書の利用については、「特定の治療を薦めるものではない」「同じ病名でも治療方法は病気の状況によって異なる」などに配慮して案内することが重要であり、医学・健康情報は本来誰もが平等に入手できるものであることや、病院図書室のやわらかい雰囲気や医療スタッフと患者とのコミュニケーションを助ける場として機能することなど、豊富な経験の中での医療情報サービスとしての図書室の役割と意義について講演されました。

参加者のアンケートには、「医学の専門書が一般にも開放されていることは本当にすぐれて

いることだと思う」「医学部の図書館が利用できることは全く知りませんでした。今後は利用していきたいと思います。」「病院図書室の役割が、一般市民ですが理解できました。」などの感想が寄せられていました。

市民への医学情報提供を理解する上で、現場の司書に大きな示唆を与えるものとなり、鳥取県西部の図書館関係者など約 30 名が熱心に聴講しました。



熱心に聴講する参加者たち（米子市立図書館）

## 鳥取県大学図書館等協議会HPをリニューアル

平成19年10月に鳥取県大学図書館等協議会のホームページをリニューアルしました。6月に開催した第7回鳥取県大学図書館等協議会(当館及び鳥取環境大学、鳥取短期大学、米子工業高等専門学校の各図書館)

でホームページの利活用に向けた取り組みについて協議した結果、相互利用マニュアルWeb版を作成して各図書館の利用に必要な情報を詳しく掲載しました。加盟図書館を利用される場合にご活用ください。



## 鳥取県立図書館 環日本海交流室資料の貸出を始めました

平成19年10月より、鳥取県立図書館環日本海交流室所蔵の中国語・ハンゲルの資料約100冊を、鳥取大学附属図書館でご利用いただけるようになりました。中国・韓国の小説や日本の小説・マンガの翻訳本、雑誌など様々な分野の資料約100冊を協力用図書としてお借

りし、図書館1階カウンター前の棚に配架しています。資料は3か月ごとに入れ替えを行い、学生証か鳥取大学附属図書館利用者カードで、一人2冊まで、2週間貸出いたします。ご希望のジャンルなどがありましたら、図書館カウンターにお申し出ください。

## 平成19年度 特別支援学校生徒現場実習を受け入れました

附属図書館では10月29日から31日までの3日間、本学附属特別支援学校の現場実習に協力して高等部生徒1名を受け入れました。

これは、一定期間校外の事業所等で作業学習を体験することによって、勤労の意味や喜びを体得させるとともに生産活動を通じて協調性や社会性を育成し、社会参加へ向けて必要な資質を育成するため毎年実施されており、当館では昨年度から受け入れているものです。

生徒は、カウンターでの図書の貸出・返却処理や書架の整理作業などを通して職場に於ける基本的なルールや社会的態度などを学び、

「初めて大学図書館へ来てみて、たくさんの人とふれ合ことができ、いろいろなことが学べてよかった。」と感想を話していました。

当館では、今後も引き続きこの事業への協力を積極的に行っていきたいと考えています。



カウンターで図書を貸出する特別支援学校生徒

### 鳥取市立図書館との共催講演会

## 「図像表現と西洋美術の歴史—ことばと視覚表現—」を開催

平成19年11月23日、標記の講演会を鳥取市立中央図書館多目的ホールにおいて開催しました。鳥取市立中央図書館とは、平成17年度に相互協力協定を結んで以来シンポ

ジウムや講演会等を共同で開催しており、これで4回目の共催事業となりました。

今回は、当館館長で本学副学長でもある高阪一治地域学部附属芸術文化センター教授が、

美術史研究の序論からイコノロジーの美術史学にいたるまでを概観しながら、寓意表現(アレゴリー)とエンブレムについて画像をまじえながら講演し、会場には美術に興味をよせる市民が熱心にメモをとる姿が見られました。

テーマから与える印象が少し難しくみえたようですが、この後のアンケートには「美術が学問やその概念を表現しているの、今後はしっかり視て隠されたメッセージを読みとる努力をしたい」「図書館の講演会らしく色々な本の紹介もあって、深くて楽しい話だった。また、続きを聞きたい」「大学の先生方が熱心に研究されている一端を聞くことができ有意義だった」などの意見がよせられ好評を博しました。なお、

この機会にあわせて、平成14年度の文部科学省特別図書購入費(大型コレクション)で購入した「エンブレム(寓意図像集)関係コレクション」の稀覯書6点を当館玄関ホールで12月末まで展示しました。



熱心にメモをとる参加者(鳥取市立中央図書館)

## 平成19年度 国大図協・中国四国地区事業委員会総会を開催

平成20年1月31日(木)、地区事業委員会委員長館である鳥取大学附属図書館(地区副理事館)において、平成19年度国立大学図書館協会中国四国地区事業委員会総会を開催しました。

この事業委員会は、平成16年度の国立大学法人化にあたり、図書館を取り巻く環境の変化と諸課題へ対応するため、地区図書館職員のスキルアップとコミュニティづくりを目指して設置されたもので、事業委員会の下に広報【A】、地区講習会【L】、ILL【I】、地域連携【S】、電子化対応【E】の5つの事業グループ(愛称ALISE)が様々な活動を展開しています。

各事業グループ主査からの平成19年度事業活動報告に続いて来年度の事業計画を協議し、地区における出版活動のあり方として新たに出版グループ【P】の設置を検

討するなど、地区内の図書館活性化への様々な提案について熱心に討議しました。閉会后、引き続き意見交換会を行い、地区図書館職員の結束の固さと意欲の高さを再認識するとともに、大学図書館として学術情報基盤への迅速な対応や地域をこえた中国四国地区としての社会貢献の方向性を確認した総会となりました。



本学VBLで開催した事業委員会

## 平成 19 年度第 2 回 鳥取地区図書館実務者連絡会議を開催

平成 20 年 2 月 15 日、県内東部の大学図書館と公共図書館（当館、鳥取環境大学情報メディアセンター、鳥取県立図書館、鳥取市立中央図書館の 4 館）から実務担当者 12 名が参加して、標記の会議を鳥取市立中央図書館で開催しました。

この会議は、業務の連携と協力を推進するとともに、実務者レベルでの相互の図書館の充実と発展に寄与することを目的として当館と県立図書館が中心となって平成 17 年度から開催しているもので、延べ 7 回目を数えます。

各館の活動状況報告に続き、まず「鳥取環境大学と鳥取大学附属図書館学生・教職員等の相手館直接利用に係る図書の返却に関する申し合わせ」について協議しました。この結果、鳥取環境大学と鳥取大学は責任の所在についてこの申し合わせに明記することとし、申し合わせの成立後は各々の教職員・学生が

直接出向いて借りた図書も、市立図書館の搬送車を利用して相手館へ返却ができるようになりました。

その他、職場体験学習等の実施内容や問題点、地域貢献事業の内容などについて協議し、それらの意見を参考にして平成 20 年度も継続して取り組んでいくこととなりました。



熱心に協議する鳥取地区実務担当者  
(鳥取市立中央図書館)

## 乾燥地研究センター事務室内にブックポストを設置

平成 20 年 2 月、乾燥地研究センター事務室内に、図書館で借りた本を返却できるブックポストを設置しました。同センターは中央図書館のある湖山キャンパスから少し離れた位置にあるため、これまでご不便をおかけしてきましたが、少しは解消できるものと思われます。

このポストには、当館の資料だけではなく、鳥取県立図書館と鳥取市立図書館で借りた資料も返却して頂けますので、乾燥地研究セン

ターの教職員、学生のみなさん、是非ご利用ください。

このポストについてのお問い合わせ先:

鳥取大学附属図書館資料サービス係  
0857-31-5672(内線 7050)  
[ac-shiryousa@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:ac-shiryousa@adm.tottori-u.ac.jp)

## 「人間力関係図書コーナー」を設置

本学の教育グランドデザイン「人間力」に関する図書を中央図書館1階カウンター横に取りそろえて、「人間力関係図書コーナー」を新設しました。



「知と実践の融合」の教育・研究理念のもと、「人間力」を根底に据えた教育、豊かな人材育成への学習支援として、蔵書WGで選書し購入した約160冊の図書を配架しました。

背表紙には金のラベル、また裏表紙にはロゴを貼り利用しやすくしています。今後とも充実を図っていく予定です。ご意見・ご要望などをお寄せください。



## 図書館利用案内が新しくなりました！

附属図書館では、利用方法をわかりやすく解説した利用案内の作成に努めていますが、このたび形態をA6版の冊子から折込式のパンフレットにチェンジしました。

内容にも変更を加え、「開館時間」「貸出と返却」「図書館を利用するにあたっての注

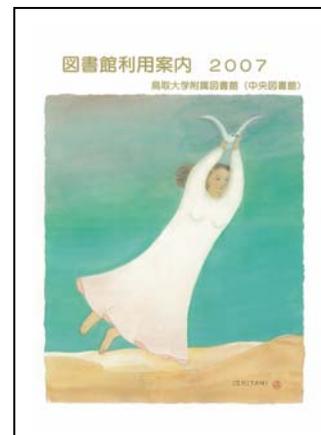
意点」「館内案内図」「県内図書館の利用」等をコンパクトにまとめて解説しました。

また、日本語版へ加えて、**英語版・韓国語版・中国語版**もそれぞれ作成しています。是非ご活用ください。

2008年版



2007年版



# 平成20年度附属図書館委員会委員

(平 20. 3. 31)

附属図書館	館長	高 阪 一 治	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
医学部分館	分館長	岸 本 拓 治	平 20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
地域学部	教授	田 中 仁	平 20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
〃	教授	住 川 英 明	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
医 学 部	教授	前 田 隆 子	平 20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
工 学 部	教授	川 添 博 光	平 20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
〃	講 師	土 井 俊 行	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
農 学 部	教授	山 本 福 壽	平 20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
〃	教授	佐 藤 俊 夫	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
連合農学研究科	教授	東 政 明	平 20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
産学・地域連携推進機構	准教授	岡 本 尚 機	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
生命機能研究支援センター	准教授	森 本 稔	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
乾燥地研究センター	教授	井 上 光 広	平 20. 4. 1 ~ 22. 3. 31
大学教育総合センター	教授	田 畑 博 敏	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
総合メディア基盤センター	教授	西 田 英 樹	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31
医学部分館	運営委員	松 浦 達 也	平 19. 4. 1 ~ 21. 3. 31

## 選定いただいた教員からの19年度学生用図書を紹介

平成 19 年度に購入した学生用図書の中から、選定していただいた先生方より下記資料の紹介文（推薦文）を頂きました。ホームページにも掲載していますので、関心を持った図書、興味のある図書等を実際に手にとって利用してください。

地域学部

2名12件

請求記号	書名	紹介文	選定者	配架場所
041:Ekk: (1)-(6)	『越境する知』全6巻	今や、国境や学問分野などさまざまな境を越えた「知」が求められている。「越境」することは、「国家や家族や企業や市場や学校や大学という装置に体制化された近代の知の編制を内側から突き崩す挑戦」(序文より)なのである。文系・理系を問わず、こうしたシリーズ本を通じて新たな時代の学問の感性を嗅ぎとってほしい。	岸本 覚	新着コーナー
210.1:Rek: (1)-(3)	『歴史の描き方』①～③	「歴史」をめぐる新たな潮流が動き始め、今までの「歴史学」や「歴史叙述」は改めて問い直しが求められている。このシリーズは、「記憶」「ナショナル・ヒストリー」「戦後」というキーワードをもとに、アメリカの日本研究者と日本の研究者が共同して取り組んだ意欲的な著作である。読者は、現在「日本史」という枠組みがどのような問題に直面しているかを垣間見ることになるだろう。	岸本 覚	新着コーナー
222.07:Nij	21世紀の中国近現代史研究を求めて	中国近現代史研究を始める人にとって必読文献。研究の方法、研究を支える思想、研究の現状などが初学者向けに書かれている。	一盛 真	新着コーナー
230.6:Sei	西洋近現代史研究入門 第3版	西洋諸国の近現代史研究を始める人にとっての必読書。研究動向が簡潔にまとめられており便利。	一盛 真	新着コーナー
918.6:Zai:(1) -(10)	<在日>文学全集 全18巻	日文学の主要著作を集めた全集。著名な作品でも品切れ絶版のものも多く在日文学を研究する上便利。この全集もすでに品切れ状態である。	一盛 真	新着コーナー
329.67:Par	パール判事	これまで保守派によって政治的に理解されてきたパール判事の判決書の根本的な読みなおし。	一盛 真	ベストセラーコーナー
311.1:Ana	あなたが平等主義者なら、どうしてそんなにお金持ちなのですか	マルクス主義とロールズのリベラリズムの思想のあり方、特にその日常性の思想を問う著作。著者自身もマルキスト。	一盛 真	新着コーナー
329.67:Kok	国連軍の犯罪	朝鮮戦争期のアメリカ軍による細菌戦・残虐行為の報告書の復刻。	一盛 真	新着コーナー
319.102:Tak:(1), (2)	竹内好セレクション I・II	竹内好のアジア論・近代の超克論などにかかわる選集。	一盛 真	新着コーナー
932.7:Soh	ソーホーのマルクス	公民権運動やアメリカ民衆史研究有名なハワード・ジンによる歴史劇。マルクスの現代アメリカ批評となっている。	一盛 真	新着コーナー
332:Gur	グローバル・ヒストリーに向けて	フランクの『利オリエント』に触発された新たな歴史像への試みの論文集。	一盛 真	新着コーナー
367.1:Jen	ジェンダーと社会理論	構築主義、エスノメソドロジー、世界システム論などの多角的な社会理論視点からジェンダーを語る理論書。	一盛 真	新着コーナー

工学部

4名14件

請求記号	書名	紹介文	選定者	配架場所
548.3:Shi	システム制御のためのマトリクス理論	制御理論を理解する上で必要になるマトリクスの性質に関してほぼ網羅している。辞書的利用価値が高い。	伊藤 和寿	開架
548.31:Shi	システム制御のための安定論	システムの安定化を行う上で前提となる理論を分かりやすく解説している。	伊藤 和寿	新着コーナー
548.3:Sis	システム制御のための数学(コロナ社)	制御理論を理解するためのツールとしての数学がどこどのように使われているか、基礎を概観する。	伊藤 和寿	開架
548.31:Gen	現代制御理論通論	現代制御理論の概説およびロボスタ化への概念の拡張が明確にまとめられており、また例も豊富である。	伊藤 和寿	新着コーナー
534.3:Sui	水圧駆動技術入門 - アクアドライブシステム-	第四の駆動源としての水圧システムを、他の駆動源と比較して解説している。問題点とその解決法の全体像をつかめる。環境に優しい駆動源を知りたい人必読の一冊。	伊藤 和寿	新着コーナー
007.61:Sei	制御技術者のための組込みシステム入門	携帯電話、炊飯器、洗濯機など、情報家電と言われる装置にはほぼ100%利用されているハードウェア、ソフトウェア技術に関して、平易に解説されている。	伊藤 和寿	新着コーナー
534.5:Yua	油圧制御システム	油圧制御システムの数学モデルとそれに対する制御系設計法を多くの例を踏まえて解説している。	伊藤 和寿	新着コーナー
433.9:Haj	はじめてみようスペクトル解析	スペクトルの原理や理論がよくわからない読者でも、本書を読み進めていけば、チャートを読むテクニックを磨くことで、有機化合物の構造解析をする力を確実に身に付けることができます。  スペクトルによる有機化合物の構造解析が初歩から学べる初心者向けの好著!	小林 和裕	新着コーナー

請求記号	書名	紹介文	選定者	配架場所
(1) 413.3:Bib (2) 411.3:Sen (3) 413.62:Job (4) 413.63:Hen (5) 413.52:Fuk (6) 413.51:Fur (7) 417.1:Kak (8) 418.1:Suc (9) 411.8:Gun (10) 414.7:Bib	シリーズ理工系の基礎数学 (岩波書店)	理工系学生のための、懇切丁寧な初等的解説と論理展開をうやむやにしない真面目な立場が素晴らしい。  最近では、各種の高等数学の手法を、アプリケーションプログラムの中で使えるようになってきた。この様な時代には、数理的手法の物理的意味と数学的境界を定めることが極めて重要である。この目的を達成するのに最適の本である。  かつては、このレベルの数学は、いわゆる数学科学生向けの参考書しかなかった。このシリーズは、数学を使う立場の人間にとっては福音であろう。	早瀬 修一	新着コーナー (1)-(4)、(6)-(10) 開架 (5)
424.3:Shi	振動・波動(基礎物理学選書(8)) (裳華房)	丁寧に書かれた振動・波動の入門書です。特に必要な予備知識はありません。高校レベルの数学と物理の知識で、本書を十分読むことが出来ます。必要な数学的知識は本書の中で与えてくれます。『基礎物理学選書』のシリーズは全般に学生が教師の指導なしに読めるよう配慮してあります。(アマゾンのカスタマーレビューより)  振動・波動の物理を独習するのに最適の名著。	早瀬 修一	新着コーナー
434:Jin	人名反応に学ぶ有機合成戦略(大型本)	古典的な人名反応から、「あれ、この反応もう人名反応になっているんだ」と思わせるごく最近のものまで、250の有用な有機反応が紹介されている。実験系(合成化学)の学生・研究者にとって有用であるのはもちろんだが、理論研究者にとっても、各反応別に集められた理論系の文献とロビンソン線図による反応の図示は極めて有用と考えられる。  学生・研究者に有用な250の有機反応の解説と文献リストは、かゆい所に手の届くベストツールである。	早瀬 修一	新着コーナー
509.6:Fme	FMEA・FTA実施法	システムの脆弱性(潜在的な故障原因)を評価する代表的な解析方法として、FMEAとFTAがあります。この本は、これらの解析手法を詳細に説明したものであります。 特に、システム設計とか製品の開発とかに興味を持ち、将来、この種の職を考えている学生にはおおいに役に立つと思います。またリスク解析に関する講義の参考図書としても、例題も数多く掲載されていることから、講義の理解が深まると思います。	松見 吉晴	新着コーナー
519:Ris	リスク解析学入門	この本は、環境、健康、技術などの分野におけるリスクの管理・評価の方法を丁寧に解説しています。また豊富なケーススタディを例に各種リスクを取り上げ、統一的なリスク解析の理論と手法を示しています。従って、自然科学だけでなく社会科学におけるリスク解析の専門書として推薦します。	松見 吉晴	新着コーナー
509.6:Kak	確率論的リスク解析	この本は、沢山出版されているリスク解析に関する書籍と一線を画して、不確定性を不可避免的に含んだシステムの物理的背景をふまえた数学モデル化の考え方を詳細に解説している点の特徴です。リスク解析をキーワードに参考図書を検索するときには必ず引っかかる図書ですので、リスク解析の講義の理解を深めるために参考にしてください。	松見 吉晴	新着コーナー

## 農学部

7名11件

請求記号	書名	紹介文	選定者	配架場所
610.1:Gor:(1)-(3)	テーア著『合理的農業の原理』(相川哲夫訳)	本書は、経済を基本理念に生産学全体も含めて一貫した理論として農学を体系化し独立の科学として確立をした、農学の嚆矢といえる書です。18世紀から19世紀にかけての「農業革命」の思想と科学、経営、農法を集大成しており、同時代のアダム・スミスの『国富論』とともにヨーロッパ近代を拓いた著作でもあります。上・中・下3巻からなる本書は上述のようにアダムスミスに名著に匹敵する著作であり、農学の原点ともいえる著作ですので、農学を志す者にはぜひとも一読してほしく思います。  持続可能な農業にどう転換するか、現代の課題に応える世界の古典であり、有機農業のバイブルとして再評価されている著作です。	佐藤 俊夫	新着コーナー

請求記号	書名	紹介文	選定者	配架場所
471.7:Pla	Plant-Environment Interactions Third Edition, Ed. Huang B, CRC Press, NJ, USA	地球温暖化などの環境ストレスに対する植物の反応を細胞及び分子レベルで説明した著書です。	藤山 英保	新着コーナー
656.5:Shi	森林水文学ー森林の水のゆくえを科学するー (森北出版)	本書は、森林と水の関係を最新の知見に基づいて解説している。特筆すべきは、本書が、森林生態学、樹木生理学、気象学、生物地球化学、水資源学、砂防学、および社会的な内容を含んだ「森林水文学」であるということである。分野を問わず、森林や水に興味のある学生に薦めたい。  森林生態学、樹木生理学、気象学、砂防学のための新しい「森林水文学」。	芳賀 弘和	新着コーナー
486.1:Kon	昆虫生理生態学(河野義明・田付貞洋編) 朝倉書店	昆虫学や応用昆虫学の学部学生向けの専門書のほとんどは前世紀に書かれたものが多く、21世紀に入ってからの最近の重要な項目を紹介したものが少ない状況下、本書は最新の情報を分かりやすく解説したものである。  最近の昆虫科学(基礎と応用)の概要がわかる。	東 政明	新着コーナー
463.8:Chu	注目のエピジェネティクスがわかる - ゲノムの修飾・構造変換と生命の多様性、疾患との関わり わかる実験医学シリーズ	近年の研究で、生物の遺伝はDNA配列により先天的のみでなく、DNAの修飾が関与して後天的(エピジェネティック)にも決定されることがわかってきた。本書は最新の成果を分かりやすく解説したものです。  注目のエピジェネティクスがわかる。	辻本 壽 田中 裕之	新着コーナー
610.4:Nih	日本の農業・アジアの農業	世界的に見て、日本の農業、アジアの農業がどのような位置づけであり、現在、何が農学の課題であるかを、農学に長年携ってきた筆者の経験から、解説した書籍である。  日本の農業から、世界を見てみよう。	辻本 壽 田中 裕之	新着コーナー
615.2:Zus	植物バイオテックの基礎知識	植物の細胞培養や細胞融合など、おもにオールドバイオテクノロジーとよばれる研究の背景や技術を初心者向けに解説した書籍である。  遺伝子組換えだけがバイオテックではない。こんなバイオテックも知っておこう。	辻本 壽 田中 裕之	新着コーナー
467.25:Yok	よくわかる！研究者のためのカルタヘナ法解説 遺伝子組換え実験の前に知るべき基本ルール	遺伝子組換え技術の安全使用に対して、様々なガイドラインが制定されてきたが、1992年、「生物多様性条約」の枠組みの下にバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書が採択された。本書は、この議定書を詳しく解説したものである。  遺伝子組換え実験を始める前にカルタヘナ議定書をしっておこう。	辻本 壽 田中 裕之	開架
615.2:Bre	Breeding Field Crops 5th ed.	本書は、植物育種学の教科書として、米国の農学部で利用されている書籍である。育種学の総論と各論について、詳しく解説されている。  アメリカでは、こんな教科書で育種学を勉強している。	辻本 壽 田中 裕之	新着コーナー
615.2:Pla	Plants, Genes, and Crop Biotechnology	植物バイオテック入門書として、植物、遺伝子、細胞について、美しい図を用いて解説している書籍である。植物バイオテックを理解するうえで役立つ書籍である。  植物バイオテックの実際を勉強してみよう。	辻本 壽 田中 裕之	新着コーナー
463:Ess	Essential 細胞生物学	本書は生化学、細胞生物学、分子生物学を始めて学ぶ学生を対象に基本から最新の知見までを網羅して著作された翻訳本である。また、章末問題を使って理解の確認が出来るようになっている。各章が独立した構成になっているので大学院生、研究者にとっても必要に応じて知識の確認をすることもできる。	山野 好章	開架

請求記号	書名	紹介文	選定者	配架場所
653.17:For	Forest Ecology and Conservation : A Handbook of Techniques	<p>Forest conservation has become one of the most important environmental issues currently facing humanity, as a result of widespread deforestation and forest degradation. Pressures on remaining natural forests continue to intensify, leading to high rates of biodiversity loss. Understanding how human activities influence ecological processes within forests is essential for developing effective conservation action. This book describes research methods and techniques relevant to understanding forest ecology, with a particular focus on those that are relevant to practical conservation and sustainable forest management. This information is currently disparate and difficult to locate and, as with other books in this series, the intention is to provide a comprehensive synthesis for use by graduate students, researchers and practising conservationists.</p> <p>Methods are presented for assessing forest extent and condition, structure and composition, and forest dynamics at a variety of scales.</p> <p>Techniques for assessing genetic variation and reproductive ecology, and for evaluating the habitat value of forests are also described. Particular emphasis is given to state-of-the-art techniques such as remote sensing, GIS, computer modelling and molecular markers.</p> <p>However, traditional methods of forest mensuration and ecological survey are also presented.</p> <p>The methods and techniques described are generally applicable to all forest types, including both temperate and tropical forest ecosystems.</p> <p>森林生態学を基礎として、劣化しつつある森林をどのように修復・保全していけばよいかについて、具体的な方法を提示しているらしい。ぜひ読んでおきたい本の一冊である。</p>	佐野 淳之	新着コーナー
653.17:Eco	Ecology of Woodlands and Forests : Description, Dynamics and Diversity	<p>Taking a functional rather than an ecosystem or a utilitarian approach, Thomas and Packham provide a concise account of the structure of woodlands and forests. Using examples from around the world - from polar treelines to savannahs to tropical rain forests - the authors explain the structure of the soil and the hidden world of the roots; how the main groups of organisms which live within them interact both positively and negatively. There is particular emphasis on woodland and forest processes, especially those involving the flow and cycling of nutrients, as well as the dynamics of wooded areas, considering how and why they have changed through geological time and continue to do so. This clear, non-technical, text will be of interest to undergraduates, foresters, ecologists and land managers.</p> <p>著者のピーター・トーマスは、樹木学という本も書いていてとても興味深い樹木の生き方について分かりやすく紹介している。この著者らが新しく森林の生態学に関係する本を出版する。基本的なところから解説されているらしいので、森林生態学に関係する英語の勉強にも役立つだろう。</p>	佐野 淳之	新着コーナー



平成20年度鳥取大学附属図書館中央図書館  
カレンダー

通常：9:00~21:00

試験期：9:00~22:00

土日祝日開館日・休業期平日  
創立記念日  
9:00~17:00

休館日

図書整理日：13:00~21:00

**2008 4 Apr**

S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

**5 May**

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

**6 Jun**

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

**7 Jul**

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

**8 Aug**

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

**9 Sep**

S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

**10 Oct**

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

**11 Nov**

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

**12 Dec**

S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

**2009 1 Jan**

S	M	T	W	T	F	S
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

**2 Feb**

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

**3 Mar**

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

鳥取大学附属図書館報 第111号 (2008年4月)

【編集・発行】 国立大学法人 鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 【TEL】 (0857)31-6727 【FAX】 (0857)28-6346

【E-Mail】[tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp/](mailto:tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp/) 【ホームページ】<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 国立大学法人 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】